

子どもの自主性 はぐく を育む

「子どもが自主的に行動しない」と悩んでいる保護者は多いものです。なぜ、子どもには自主性が必要なのでしょう。それは、いずれ子どもが成長し社会に出て働くようになったとき、最も必要とされることのひとつが「自主性」だからです。社会に出ると、いったんやり方を教わったら、自主的に取り組み仕事を成し遂げなければなりません。自主性のある人が、社会から求められる人だともいえるのです。今回ははぐくみでは、そんな気になる子どもの自主性チェックと自主性を育むための接し方を紹介します。

✓ 自主性チェック

Q1

決まった時間に一人で起きることができる。

- ア…当てはまる
- イ…やや当てはまる
- ウ…あまり当てはまらない
- エ…当てはまらない

Q2

自分の予定を分かっている。

- ア…1週間先まで
- イ…明日まで
- ウ…今日だけ
- エ…分からない



Q3

自分の物が、家のどこにあるか分かっている。

- ア…当てはまる
- イ…やや当てはまる
- ウ…あまり当てはまらない
- エ…当てはまらない

いかがですか？ 「ア」や「イ」と答えた人が、自主性があると考えられる人です。一方、「ウ」や「エ」と答えた人は、これを機に自主性を育むことについて考えてみましょう。



👉 自主性を育む子どもへの接し方

子どもの自主的な行動を促すためには、まず親の子どもへの接し方を振り返ることから始めましょう。干渉しすぎていませんか？ それが子どもの自主性を奪う第一歩となっているかもしれません。以下のことからトライしてみましょう。

小学生の場合 まず一週間分のスケジュールを一緒に立ててみましょう。スケジュールを紙に書いていつでも見られるようにすれば、一日の中で何をすべきかを子どもが自分で考え、行動できるようになります。

中学生の場合 中学生ともなれば、多感で難しい時期です。「うるさく言い過ぎたな」と思ったら、「ごめんね、言い過ぎたね」と素直に謝りましょう。そして言われなくても何かをしたら、必ずそれを笑顔と短い言葉で認めましょう。「やってるね」「ありがとう」——。自主的に行動を起こしたときに、親の笑顔と認める言葉があれば、いつか子どもは自分で考え、行動できるようになります。(参考:すくすく育つ！ 子どもの自主性 “子とともに ゆう&ゆう” 2021年 P10-19)



5月はあいさつ強調月間

家庭で、学校で、地域社会や職場でも、あいさつの輪を広げましょう。